

きっかけは
“他人との差から感じた焦り”。

はじめに自己紹介をお願いします。
(福野)

新潟大学法学部4年生の宮澤拓といいます。出身は新潟市で高校は新潟南高校です。趣味は日本食の食べ歩き、飲み歩きです。あと、農業関係のことに興味があります。

大学生活が変わったというきっかけはありますか。(福野)

僕は2年生のころ、バイト三昧だったんですけど、「これでいいのかな、大学生活」と思っていて。そういう時期に企業の社長に同行してみるというイベントに参加したんです。そのイベントでは僕が最年少で、他の参加者は留学されてきた方とか団体を立ち上げた方とかいっぱいいて、1年後の

自分と比べたらまずいかなと思ったんですよ。(イベントの)参加者はみんな、問題意識を持ってイベントに来ていたので、「どうなの、この差は!」と思った。そんな時期に長期のインターンシップを紹介してもらったことがきっかけだったと思います。

主体的に動くことで
責任を自覚する。

インターンシップを体験してみて、衝撃を受けたことはありますか。(福野)

最初インターンシップって相手から何か教えてくれるだろうと思っていたんですけど、主体性が何より求められていて。(インターンシップ中に)新事業が立ち上がったんですけど、その事業を進める上で(自分自身が)主体性を欠いてしまって、本気で怒られたことがありました。その時、「もうお前とは取引なんて絶対しないよ」と言われたことが、一番衝撃的でしたね。社会をなめていたなと思いました。

やっぱりインターンシップはアルバイトと違いましたか。(泉)

一番の違いは権限の差で、どれだけのものを任せていただいているかということ。例えば僕は価格の設定や、交渉時の数量とか交渉の仕組みなど基本的に何でも任せていただいていたので、その辺が(アルバイトとの)一番の違いかなと思います。

インターンシップ期間中で印象に残っていることはなんですか。(福野)

インターンシップ中だと、さっき言った怒られたこととか…あと、僕は4日で逃げ出したんですよ。その時に、『7つの習慣』という本を読んで、初めて「主体性」という概念を知ったんですよ。

その「主体性」を新しく知ったことによって、日常生活に生きている部分はありますか。(泉)

それは多分、基本的に自分に責任を帰属させるような視点が働くようになった点で

学生Interview!! 自分の居場所

このコーナーでは、新大で今輝いている学生に取材をして、その考え方や素顔に迫っていきます!

第2回目は、長期型インターンシップ(就職体験)の成果を語る

〈第2回地域若者チャレンジ大賞〉で、金賞を受賞した“輝人(キラット)”です☆

※輝人=新大広報学生編集スタッフが考える「輝いている人」のこと

法学部4年生

宮澤 拓 (ミヤザワタク)

新潟市出身。長期インターンシップに参加。北信越代表で「第2回地域若者チャレンジ大賞」にて金賞・共感賞をダブル受賞。

●地域若者チャレンジ大賞のホームページ
<http://www.challenge-community.jp/award/>

すかね。日常生活で起こったことは、何でも人のせいにできると思うんですけど「ああしたらうまくいったかもしれない」とか、「よく考えたらおれも直せるな」とか、それを自分に求めること。そうすることでいろいろ人間関係などうまくいくようになりますし。

将来への積み重ねは
早ければ早いほど有利。

将来、何かやりたいことはありますか。(福野)

将来的に飲食店をやりたいなと思っています。それは飲食の場がすごく楽しかつ

たとか、感動する体験があったというもあるんですけど、それプラス、最近すごく固まってきたことで、僕が一番喜ばせたいのは自分の親であって、両親のために、そういうお店をまずつくりたいなと思っています。

最後になりますが、後輩にメッセージをお願いします。(福野)

僕は、自分の将来を考えるのは早ければ早いほどいいと思っていて、大学の中にあるだけで将来の選択って難しいと思うんですよ。やっぱり外に出ていろんな人に会ったり、話をしたりして、自分の方向性を決めていかなければいけないじゃ

ないのかなと思うんです。だから1、2年生の間からそういう活動をするとか、考えるということは積んでいってほしいなと思いますね。

1年生だから早い、というのはないのでですね。(泉)

ないと思います。むしろ1年生のほうがフリーなんですね。「(社会人から見れば)1年生なのにもうそんなことをやっているんだ」となるから絶対有利なんですよ。1年生の頃そんなことをやっている人いないじゃないですか。だから、企業の方は、何でも教えてくれるし、「やっぱり会いたいです」というと会ってくれるしお勧めです。



第1位

地域若者チャレンジ大賞で金賞と共感賞というのをもらったことです。地域若者チャレンジ大賞とは全国で長期型インターンシップを体験した学生400人ぐらいで予選をやって、その中から選ばれた8人が集まってプレゼンテーションをするというものです。見た目は僕が賞をもらっているんですけど、僕を育ててくれた人がいっぱいいるんですね。そういうみんなに対していただいた賞だという気持ちで受け取っています。

第3位

1、2位以外では、バイトの思い出が一番いいかな。結構意識の高い店で(働いていて)、みんなで仕事って何なのということとか、どうしたらもっとお客さんを喜ばせるのとか語りまくったりしていたんですよ。それすごく楽しくて、思い出としては残っているかな。

大学生生活の 思い出ベスト3

第2位

今年の8月にママチャリで自転車旅に出たときのことですかね。そういうことをしているとみんなやさしくて。途中、三国峠を通った時に会ったおじいちゃんに、「水しか出せないけど飲んで」と言われ、ついて行ったら、アイスとかお茶とかいろいろ出してくれたりとか。他にも自転車屋さんやタダでいろいろ直してくれたり、温泉に行ったら受付の人が新潟出身で割引してくれたりとか。そんなことがいろいろありましたね。いい感じでした。その旅は。